

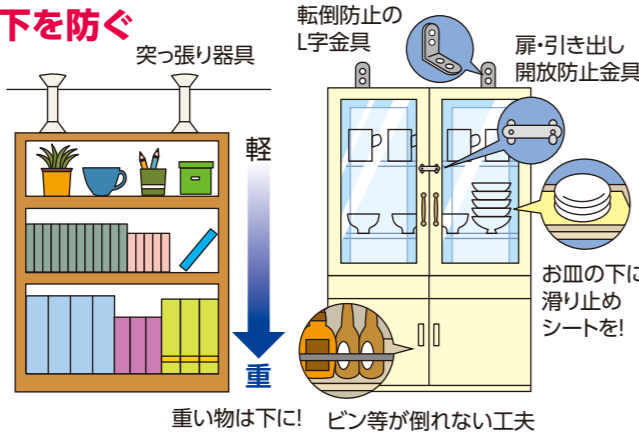
災害に備えた家の準備

地震に備え、家の中の安全を確保しましょう

地震発生時、家具の転倒によってケガをしたり、避難経路がふさがれてしまったりすることがあります。家具の固定や置き方を工夫しましょう。また、火災発生やガラスの破片でのケガなど、二次的災害へも備えましょう。

家具の転倒・落下を防ぐ

重いものや大きなものは棚の下のほうに収納し、L字金具や突っ張り器具などで家具を固定しましょう。食器棚の棚板には滑りにくい材質のシートを敷きましょう。



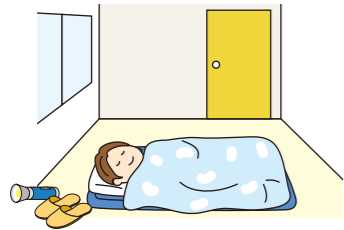
通電火災を防ぐ

「感震ブレーカー」は、地震発生時に揺れを感知したときに、電気を自動的に止める器具です。



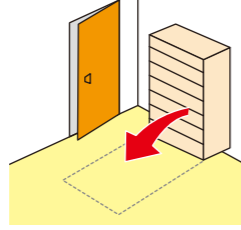
寝室での備え

家具を置かないようにして、近くに懐中電灯やスリッパを置きましょう。



出入口にはものを置かない

出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かないようにしましょう。



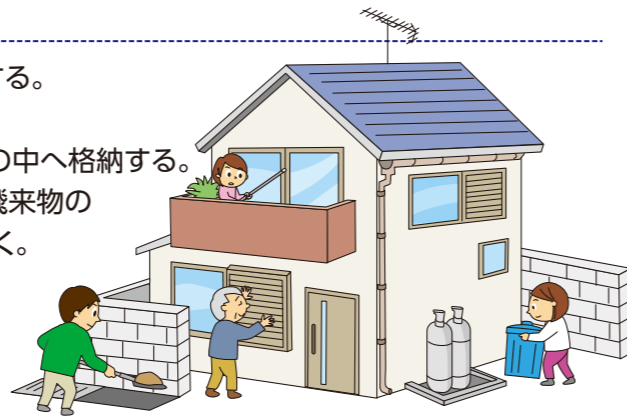
室内での備え

窓ガラスや食器類の破片対策として、飛散防止フィルム、スリッパの準備をしておきましょう。



水害への備え

- 窓や雨戸はしっかりとカギをかけ、必要に応じて補強する。
- 側溝や排水口は掃除して水はけを良くしておく。
- 風で飛ばされそうな物は飛ばないように固定したり、家の中へ格納する。
- 飛散防止フィルムなどを窓ガラスに貼ったり、万一の飛来物の飛び込みに備えてカーテンやブラインドをおろしておく。
- 水を確保する。(断水に備えて飲料水を確保するほか、浴槽に水を張るなどして生活用水を確保する。)
- 避難場所・避難経路を確認しておく。



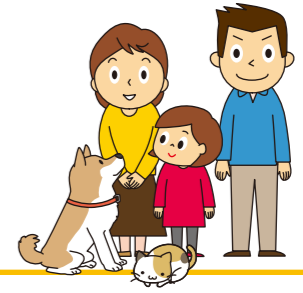
耐震診断・耐震改修工事・除却工事

市では地震に強いまちづくりを推進するため、木造住宅の耐震診断や耐震改修等事業費補助を実施しています。

【問い合わせ先】 木津川市 建設部 都市計画課 ☎0774-75-1222

ペットの防災対策

災害は突然起こります。いざというとき、ペットを守れるのは飼い主だけです。まず飼い主が無事であること、そして避難する場合にはペットと一緒に避難場所に避難すること(同行避難)が基本です。ともに安全に避難でき、周りの人へ迷惑をかけず、安心して過ごすためには、日頃からの心構えと備えが大切です。



住まいの防災

住まいを災害に対して強くしておくことが、人とペットの安全にもつながります。

- 住まいの耐震強度の確認
- 家具の固定、転倒・落下防止
- 飼育ケージの固定、転倒防止(屋外飼育の場合は外塀やガラス窓の近くを避ける)
- ケージなどペットの避難場所(隠れ場所)の確保

健康管理としつけ

普段からワクチン接種など健康管理に注意し、動物の体を清潔に保ち、必要なしつけをしておきましょう。

- 予防接種や外部寄生虫の駆除
- ブラッシングで抜け毛をとる
- キャリーバッグやケージに慣らしておく
- 「マテ(制止)」や「オイデ(呼び戻し)」や決められた場所での排泄などのしつけ

家族の話し合いやご近所との連携

さまざまな場面を想定して、家族やご近所、飼い主仲間と防災について話し合っておきましょう。

- 家族間の連絡方法や集合場所
- ペットの避難方法や役割分担
- 留守中の対処方法と協力体制
- 緊急時のペットの預け先の確保

所有明示の徹底

ペットと離れ離れになったときのため、迷子札とマイクロチップなど、普段から身元を示すものを二重でつける対策をとりましょう。

- 鑑札、狂犬病予防接種注射済票(犬の場合)
- 外から見える迷子札(鳥は足環など)
- はずれる心配のない身元証明のマイクロチップ

情報収集と避難訓練

住んでいる地域の災害リスク等を確認し、避難場所までの所要時間などを確かめておきましょう。

- 避難場所までの経路と所要時間
- 危険な場所と迂回路の確認
- ペット同行避難訓練への参加
- 動物が苦手な人への配慮

人と動物の安全確保と同行避難

災害が発生したら、まず自分の身の安全を確保し、落ち着いてから自分とペットの安全を守りましょう。

- 情報を集めて避難場所への避難が必要か判断
- 犬はリードや胴輪をつける(緩んでいないか確認)
- 猫や小型犬はケージやキャリーバッグに入れる
- ※キャリーバッグの扉はガムテープなどで固定する
- ※布などで包んで暗くして安心させるとよい

ペットのための備蓄品

ペットの災害時の備えは基本的に飼い主の責任です。

- 療法食、薬(必要なペットには必ず用意)
- 5日以上分のフードと水、食器
- 予備の首輪、リード(伸びないもの)
- 飼い主の連絡先やペットの情報を記録したもの
- ペットシート、トイレ用品、洗濯ネット(猫の逃げだし防止など)、好きなおもちゃ、にのいのついたタオル、ブラシ、ガムテープ、新聞紙、ブランケット(ペットの体を包める大きさ)などがあると便利

避難所と仮設住宅

動物が嫌いな人、動物のアレルギーを持つ人、幼い子供など多様な人々や動物が集まるため、ストレスからペットも体調を崩しやすくなります。

- 飼い主は普段以上に周りの人へ配慮する(特にふん尿に関するトラブルが多い)
- 世話やフード確保など飼い主の責任の下で行う
- 飼い主同士が協力して助け合う
- 支援物資や情報を共有する
- 獣医師やボランティアによる支援を活用する
- ペットの体調に気を配る

(環境省:パンフレット「備えよう!いつもいっしょにいたいから」)